店舗一覧

明石市中央部	本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	明石駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
	二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221
加古川市・高砂市・播磨町	加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
	本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
三木市・小野市・加東市	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
	天神支店	加東市天神492	0795(47)1011
	滝野支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010
神戸市東部	本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-6	078(411)3281
	六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
	西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
神戸市中央部	神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
	神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
神戸市北部	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-20	078(591)1221
	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
神戸市西部	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
西宮市	西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489

あなたのそばで 明日を奏でる。

日新信用金庫

フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489
(受付時間)平日午前9時から午後5時まで

URL http://www.nisshin-shinkin.co.jp/

〈にっしん〉

2016年9月仮決算から

We will make a fresh step everyday.

彫画:伊藤　太一

日新信用金庫
The Nisshin shinkin bank

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

国内経済は、円高や新興国経済の減速などの影響により輸出に力強さを欠きますが、設備投資は底堅く生産も持ち直すなど、総じて堅調な動きであります。

当面は、欧州や新興国など海外経済や為替の動向に注視が必要ですが、経済対策の実施に伴う公共投資や個人消費の下支えもあり、景気は緩やかに持ち直すと見られています。

しかし、地域の中小企業においては、売上不振及び人手不足に伴う人件費の増加などにより、収益面では厳しい状況が続いています。

そうした中、当庫の平成28年9月末現在の預金残高は7,227億円、貸出金残高は3,204億円となりました。金利水準が低下する中、当期純利益は1,049百万円計上することができました。また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.82%と十分な水準にあります。

仮決算の概況を次ページ以降にグラフを用いて分かりやすくまとめてみましたので、ご一読いただければ幸甚でございます。

人口の減少や高齢化の進展、フィンテック等の技術革新の動き、世界的な金利の低下等、金融機関の経営環境は大きく変化しています。そういった中においても〈にっしん〉は「お客さま第一主義」を旨として、多様化するお客さまのニーズや課題に対して、質の高いサービスの提供に努め、金融仲介機能を十分に発揮することで、地域経済の活性化に一層貢献してまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

〈明 石〉
明石公園

〈神 戸〉
異人館

〈三 木〉
三木城主 別所長治

絆（地域とともに持続的発展を）

● 当金庫は、ヴィッセル神戸を応援しています。

ヴィッセル神戸サッカークリニック開催（H28.10）

● 地域行事等へ積極的に参加しています。

第5回 明石公園納涼フェスティバル

明石駅前支店（H28.8）

第34回 ふるさと祭り

緑が丘支店（H28.8）

お客さまの安心・安全のための取り組み

● 防犯訓練の実施

強盗犯による模擬訓練　本山支店（H28.6）

● 還付金詐欺被害を未然に防止しました。

緑が丘支店（H28.8）

● 明石防犯協会へ防犯カメラ設置の寄付をしました！

防犯カメラ感謝状贈呈式（H28.8）

地域貢献活動

【明石市子育ておうえん定期預金】

募集残高の0.01%相当額を「明石市こども基金」へ寄付し、「こども夢文庫」の運営に活用していただきます。

（明石市内の10店舗）
取扱期間：
平成28年5月16日～
平成28年11月30日
（予定）

【神戸市子育ておうえん定期預金】

募集残高の0.02%相当額を神戸市へ寄付し総合児童センター「こべっこランド」等の運営に活用していただきます。

（神戸市内の17店舗）
取扱期間：
平成28年9月1日～
平成29年2月28日
（予定）

【子育て応援定期積金　夢すくすく】

対 象：
18歳以下のお子さまがおられ、親権者としてお子さまの定期積金をご契約される個人のお客さま。

取扱期間：
平成28年4月1日～
平成29年3月31日

（くわしくは店頭にチラシをご用意しております。）

『にっしん輝きメッセ2016』を開催しました！

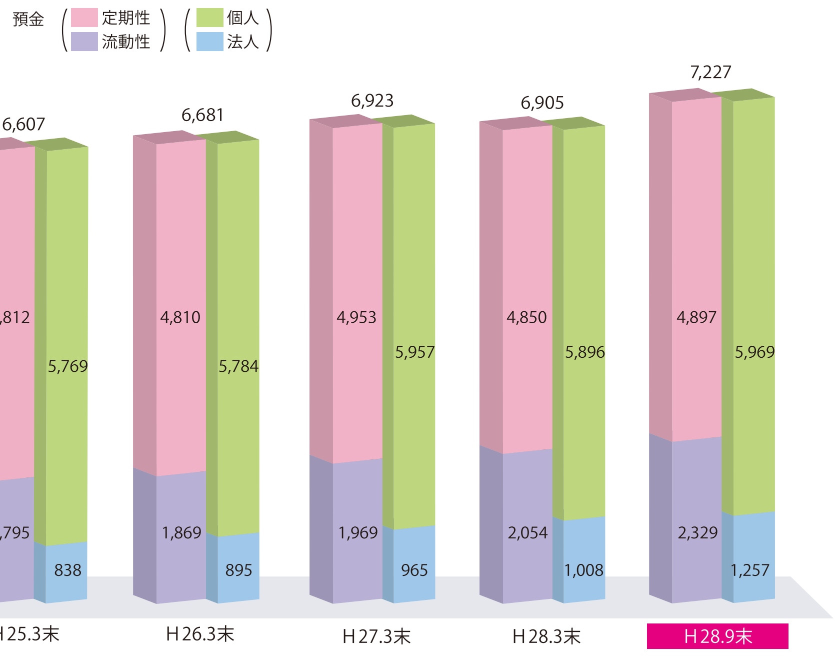
● 国際フロンティア産業メッセ2016の会場内で、「にっしん輝きメッセ2016」を開催し、当金庫を含む18社（19ブース）が出展しました。大勢の方にお越しいただき、盛会となりました。

9月8日、9日の2日間にわたり、神戸国際展示場（ポートアイランド）で開催

【にっしん】オリジナルキャラクターが誕生しました！

● この度、当金庫のオリジナルキャラクターとして子午線の町・明石で十二支方図から飛び出した、ねずみのチュー助とうまきちが誕生しました。今後は、当金庫のサービスをご案内したり、お金の大切さを伝えたりとさまざまな場面で活躍します。何卒、ご愛顧のほどよろしくお願いします。
（H28.9）

〈預　金〉



【預　金】

預金は平成28年3月末対比322億円増加し7,227億円となりました。毎年3月末は地方公共団体等の預金が一旦引き出されるという特殊事情があるため、実際の増加額は185億円となります。

定期性預金については47億円の増加、流動性預金については275億円の増加となりました。法人、個人ともにお取引先が増えたことによって、法人預金は249億円の増加、個人預金は73億円の増加となりました。

低金利の状況下ではございますが、これからも工夫をこらし皆様によろこんでいただけるサービスの提供に努めてまいります。

【貸出金】

貸出金は平成28年3月末対比171億円増加し3,204億円となりました。運転資金、設備資金ともに増加しています。保証協会保証付貸出も順調に増加しています。

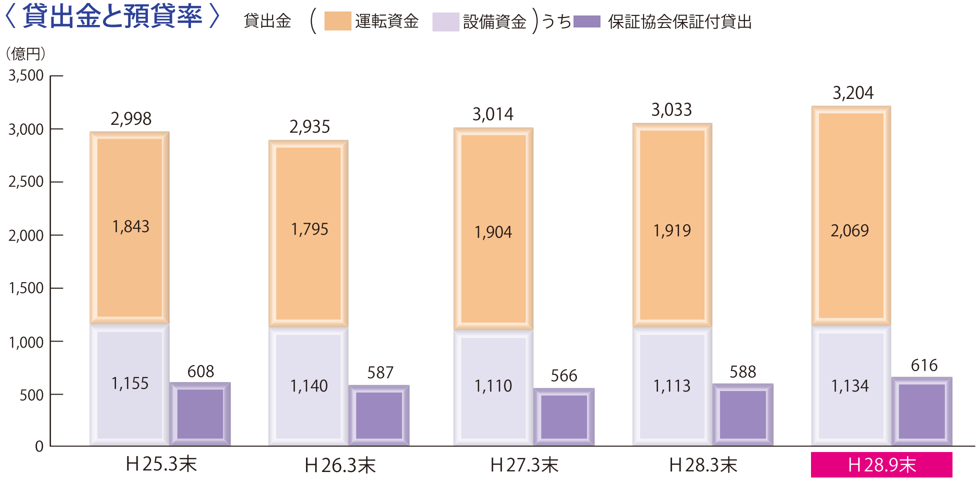
これからもお客様のライフステージに応じた適確な資金の提供に全力で取組んでまいります。

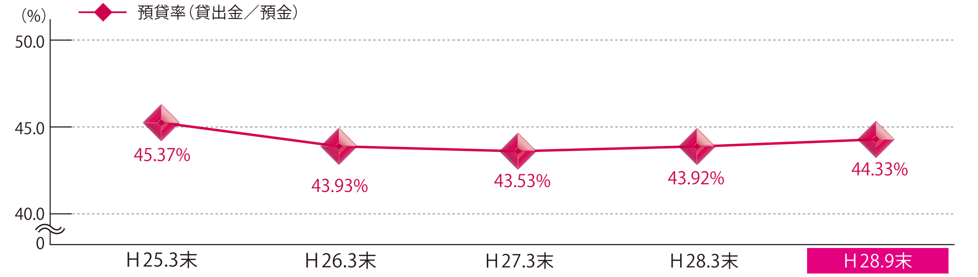
【業種別構成比】

業種別貸出金構成比をみると、平成28年3月末と比較し、製造業で0.6%、卸・小売・飲食業で0.3%、医療・福祉業で0.2%の増加が見られます。不動産業は0.5%減少しています。

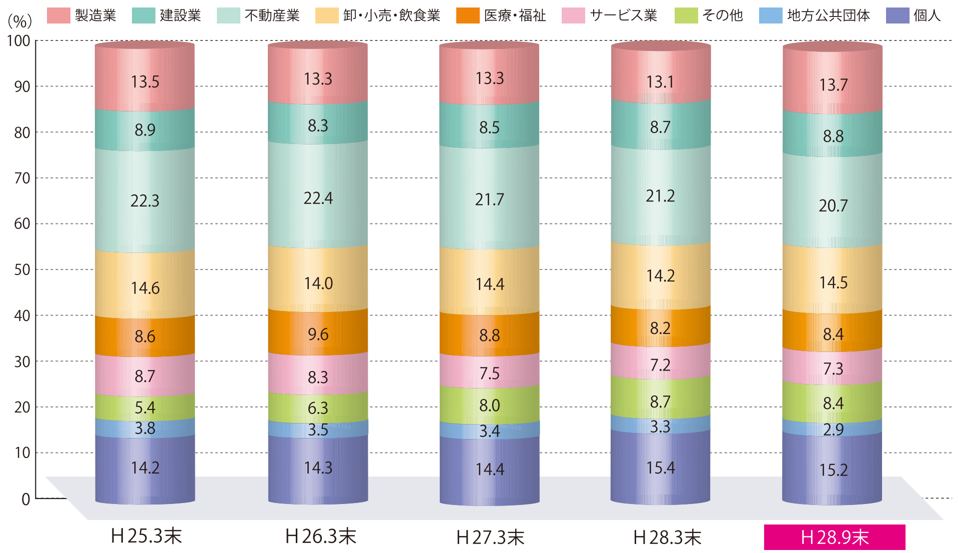
個人向け貸出金については0.2%低下していますが、今後消費者ローンについては、インターネットでの手続きによる非対面取引など、お客様にとってご利用しやすい環境の整備にも努めてまいります。

〈貸出金と預貸率〉

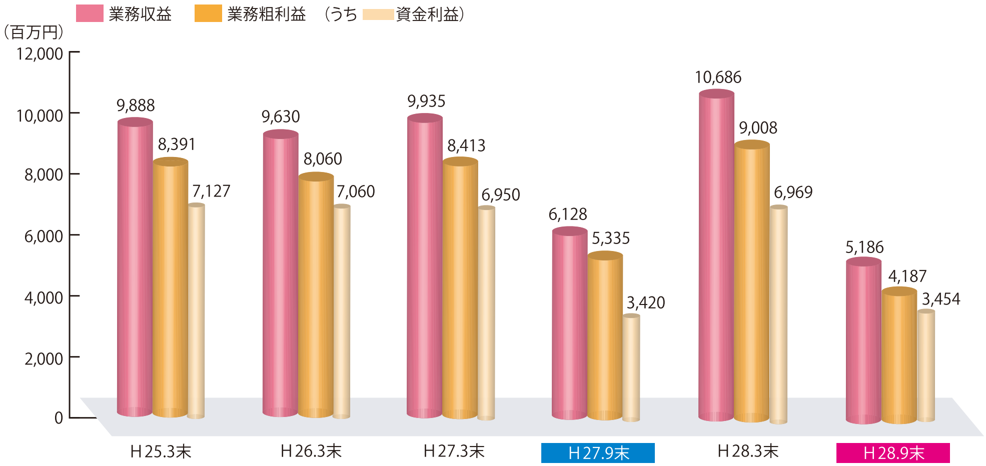


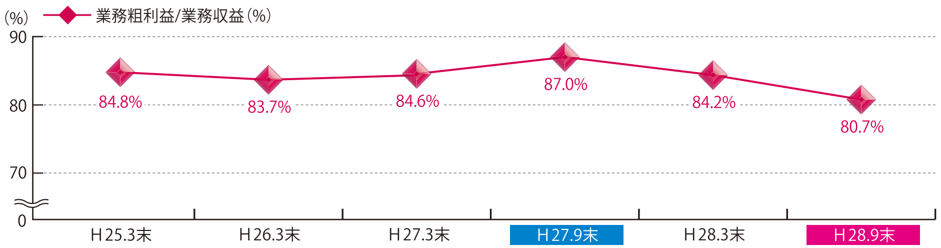


〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉

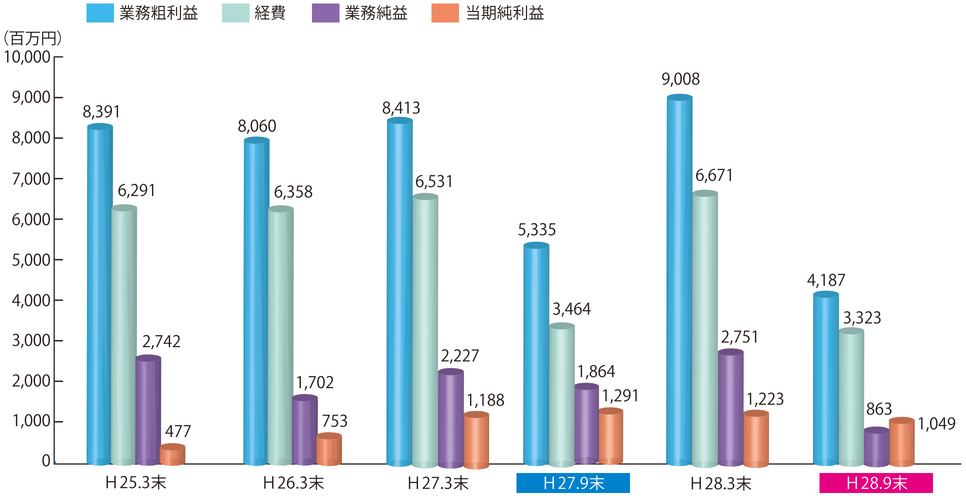


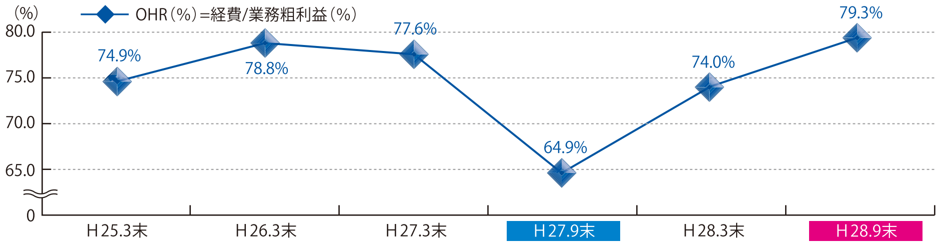


一般企業の売上に当たる業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等)は、有価証券売却益を抑えたことから、前年同月に比べて942百万円の減少となりました。それに伴い、業務粗利益(業務収益−預金利息等の原価)も前年同月に比べて1,148百万円の減少となりました。資金利益(貸出金と有価証券運用から発生する利益−預金支払利息)は、市場金利の低下によって、貸出金利息収入は減少したものの、有価証券利息配当金の増加と預金利息の減少によって前年同月に比べて34百万円の増加となりました。

〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益−経費等)、当期純利益〉

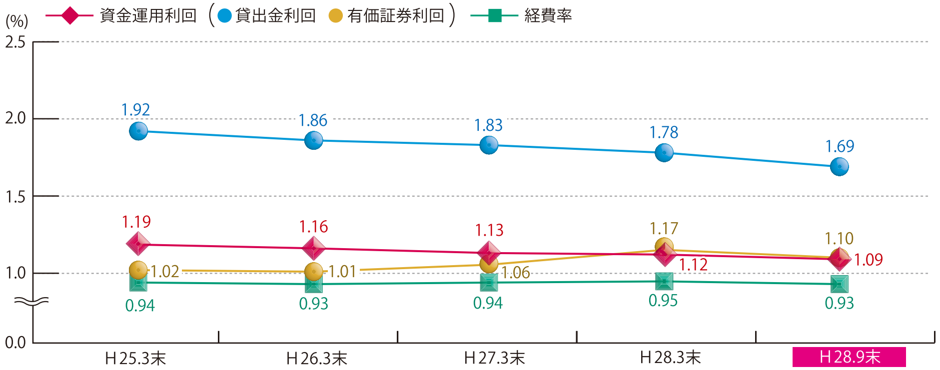
〔参考〕業務粗利益−(経費+一般貸倒引当金純繰入額)=業務純益

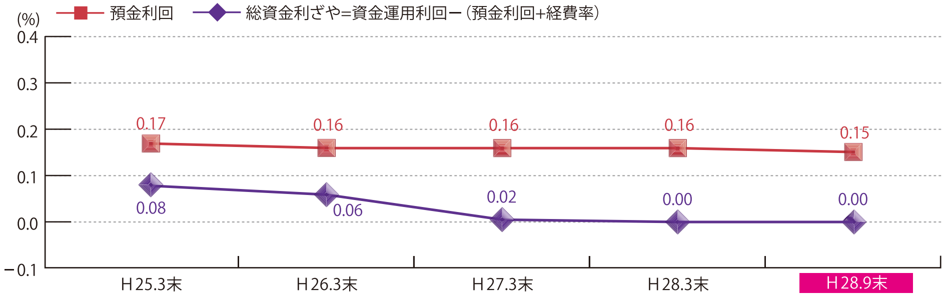




経費は、前年同月に比べて140百万円減少しました。昨年は、しんきん共同センターへのシステム移行という特殊要因によって費用が増加していましたが、今期は、そういった特殊要因もなくなったことによるものです。業務純益は、業務粗利益の減少により、前年同月に比べて1,001百万円の減少となりました。当期純利益は、貸倒引当金戻入益278百万円などにより、前年同月に比べて242百万円の減少に留まりました。

〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや〉

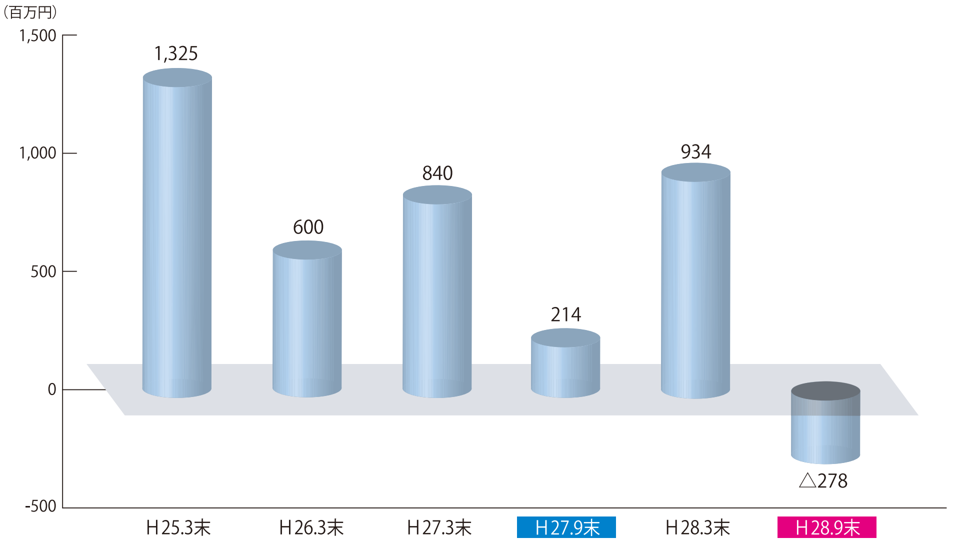




資金運用利回は前年度末に比べて低下しました。要因は市場金利低下の影響による貸出金利回の低下と有価証券利回の低下によるものです。預金利回及び経費率の低下により、総資金利ざやは前期末と同様となりました。一層、収益力の向上に努めてまいります。

〈 貸出金にかかる不良債権処理費用等 〉

＊不良債権処理費用（債権償却額、債権売却損、貸倒引当金純繰入額等の合計）



貸出金にかかる不良債権処理費用等とは、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計です。すなわち、将来の発生を見込んで現時点で算定した損失見込額及び回収不能となって確定した損失額の合計額です。

平成28年9月末の不良債権処理費用等は、今期に目立った不良債権の発生がなかったことに加え、お客様の経営内容が良化したことによって、以前に積み上げていた貸倒引当金費用278百万円が戻入れとなりました。

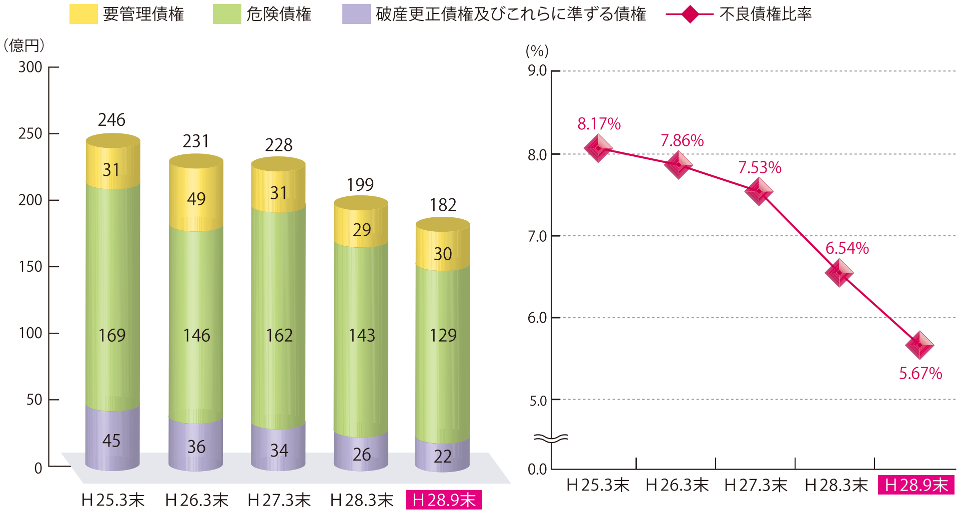
今後も貸出債権の不良化を防ぐため、経営改善支援や融資審査などの強化に全力で取組むと同時に、将来のために引当も十分行ってまいります。

〈 不良債権（要管理債権を除く）の保全状況 〉

平成28年9月末の不良債権（要管理債権を除く）は151億円あります。その保全状況は右の通りです。

貸倒引当金は43億円積んでおり、会計上43億円は損失処理済です。優良担保・保証（保証協会保証等）で保全されている額が63億円、一般担保（土地・建物等）・保証で保全されている額が32億円、合わせて96億円は回収が確実であると見込んでいる額です。残りの11億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。

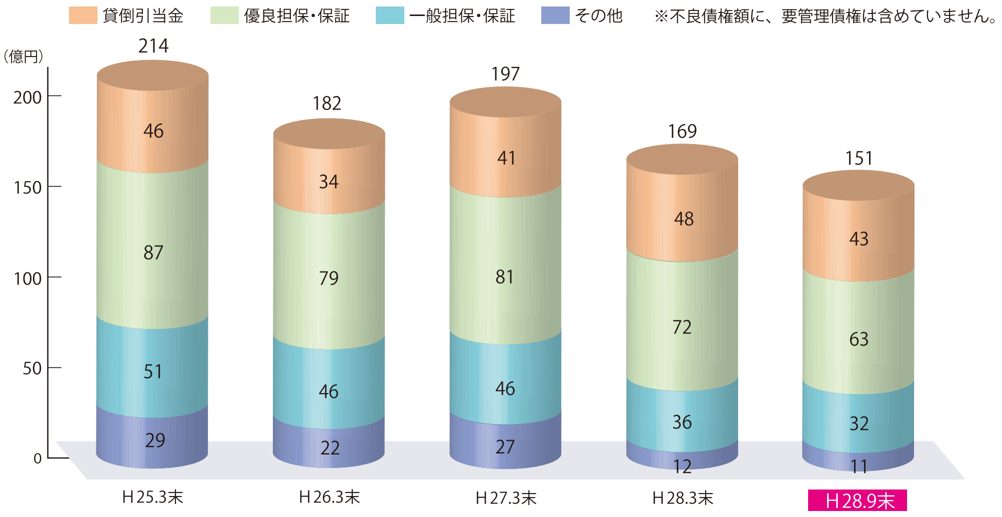
〈 不良債権（金融再生法上の開示債権）の内訳と不良債権比率 〉



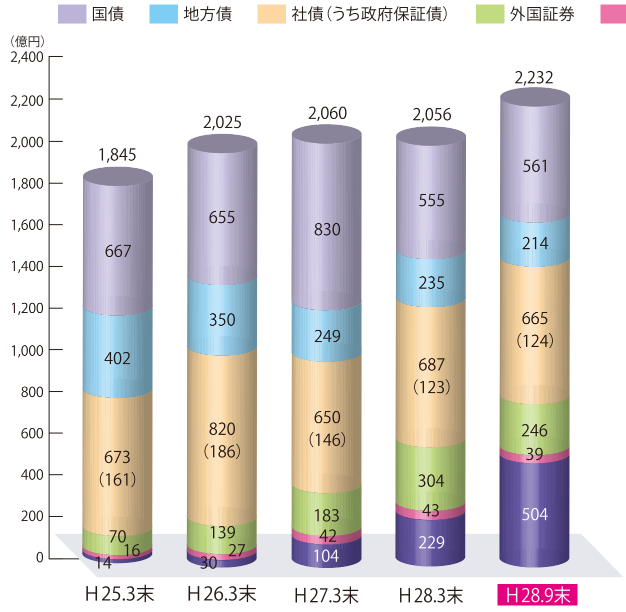
不良債権は、要管理債権、危険債権及び破産更生等債権に分類されます。

平成28年9月末の不良債権残高は182億円となり、平成28年3月末に比べて17億円減少しました。また、平成28年9月末の不良債権比率は5.67%と平成28年3月末と比べて大きく低下しました。これは、目立った不良債権の発生がなかったこと、お客様の経営の改善がなされたこと、それに貸出金が増加したことによるものです。

これからもお客様と一体となって経営改善に取組んで参ります。



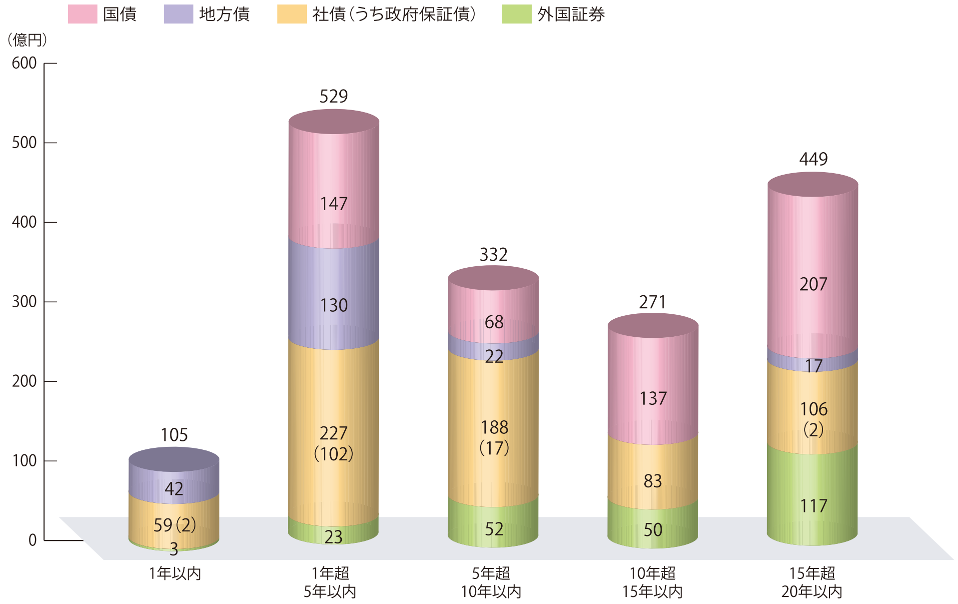
〈有価証券の種類別保有状況（平成28年9月30日現在）〉



日本銀行の政策を受けて市場金利が低下し、国内債の運用だけでは所期の利息配当金収入が確保できないため、投資信託への投資を増やしたことで国債、地方債及び、政府保証債の残高は横這いとなっています。リスク管理を強化しつつ安全性を重視しながら、外国証券、国内優良銘柄の株式、株式指数・REIT指数に連動するETF、及び投資信託に小口分散投資しています。

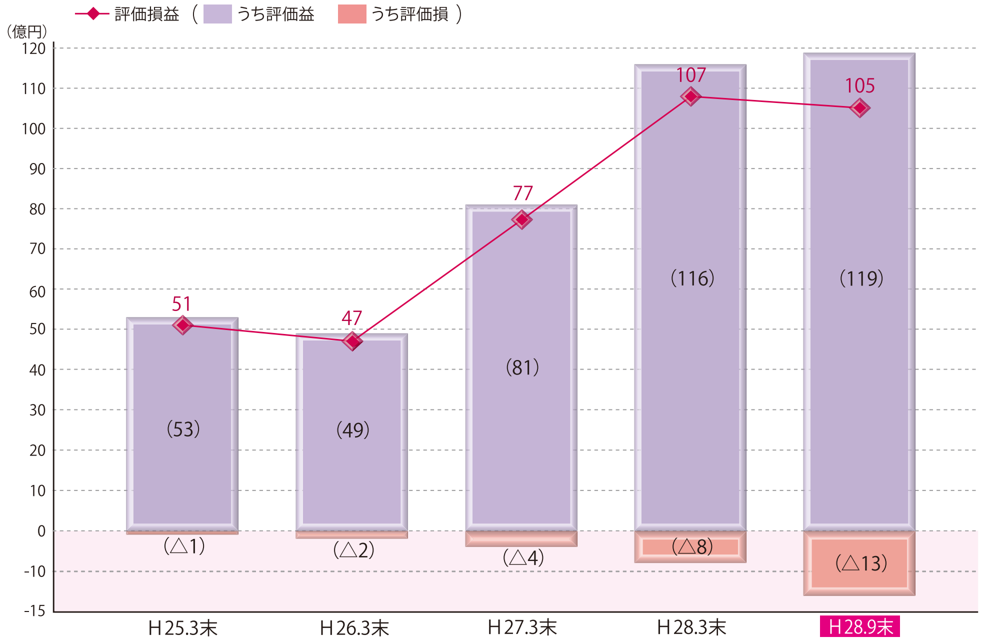
外国証券は全て円建てで、主に単純な仕組の変動利付債で運用しています。投資信託は貸出金利息の減少を補う等の目的で、日本より市場金利が高い主要先進国の国債を投資対象としたファンドを中心に分散して運用しています。

〈債券〔償還までの期間別に見た残高〕（平成28年9月30日現在）〉



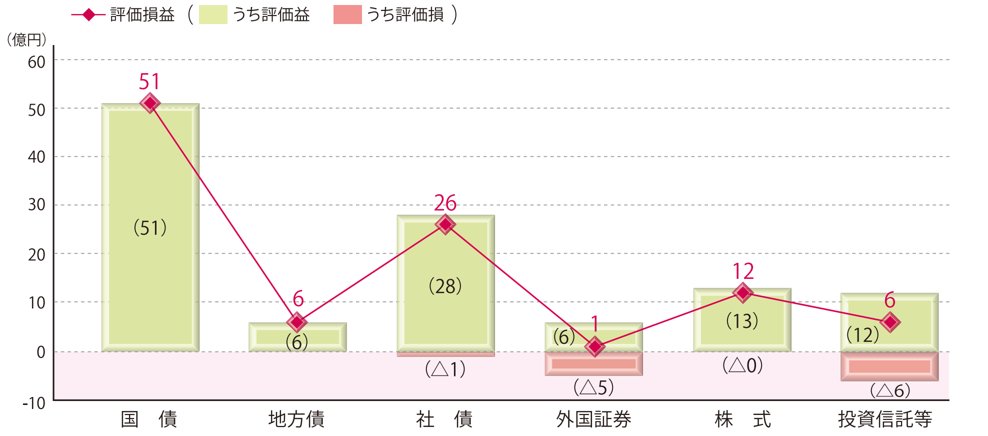
有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したものです。収益向上のため、期間10年超20年以内の国債、地方債、社債、外国証券にも投資しています。

〈有価証券の評価損益の推移〉



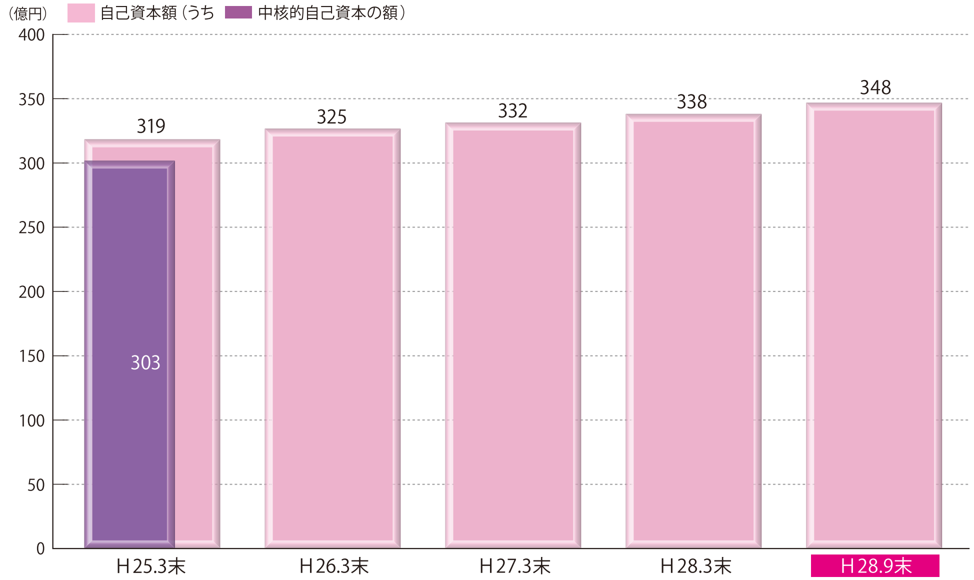
平成28年9月末現在、有価証券の評価益は119億円、評価損は13億円です。有価証券全体で差引105億円の評価益となっています。

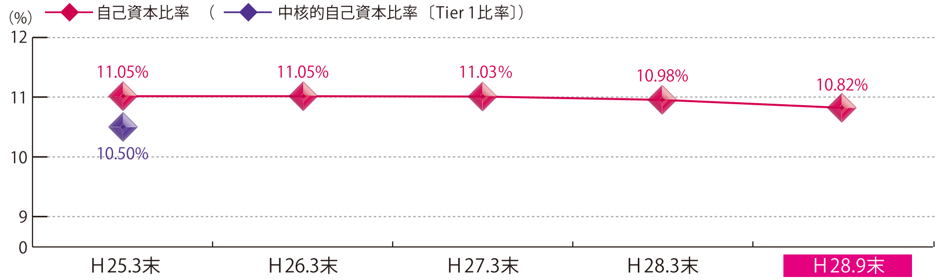
〈有価証券の種類別の評価損益（平成28年9月30日現在）〉



平成28年9月末現在の有価証券の種類別評価損益を示したグラフです。社債、外国証券、株式、投資信託等で評価損がありますが、すべての種類で評価損益はプラスとなっています。

〈自己資本と自己資本比率（信用金庫単体）〉





（億円）

	H25.3末	H26.3末	H27.3末	H28.3末	H28.9末
リスクアセット	2,887	2,946	3,011	3,082	3,220

自己資本比率は、平成28年9月末で10.82%となりました。

当金庫の自己資本比率は国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

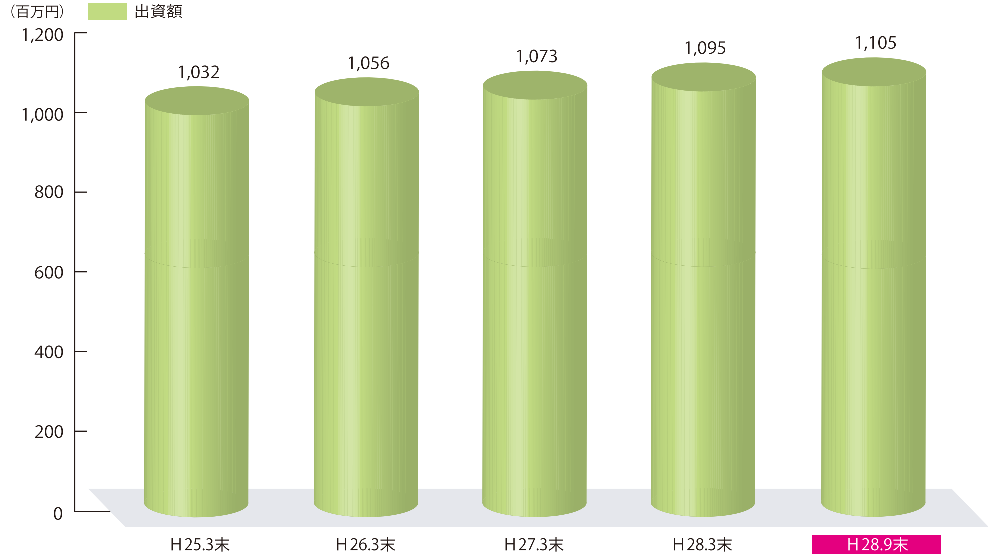
これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

なお、自己資本比率の算出方法を定めた基準（平成18年金融庁告示第21号）が平成25年3月8日に改正され、平成24年度以前は旧告示に基づく開示、平成25年度以降は新告示に基づく開示を行なっています。それにより、平成26年3月期から中核的自己資本比率は記載していません。

〈会員数〉

新規融資先の増加により、会員数は増加しました。

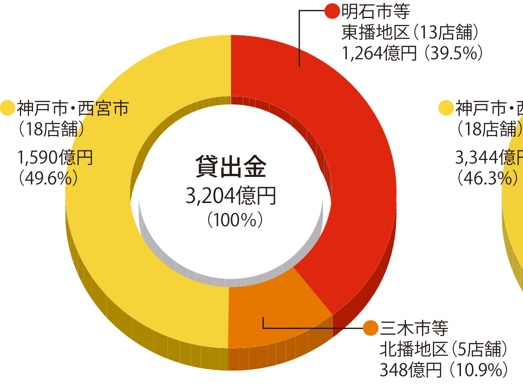
〈出資額〉

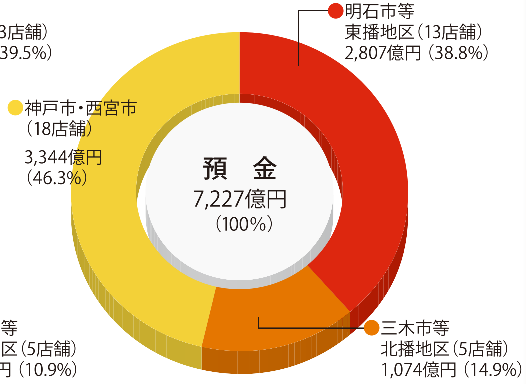


会員数の増加により、出資額も増加しました。

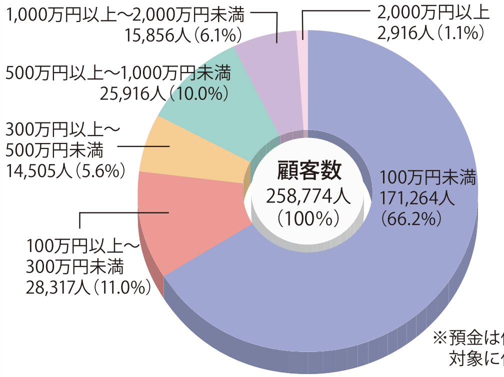
ご　参　考

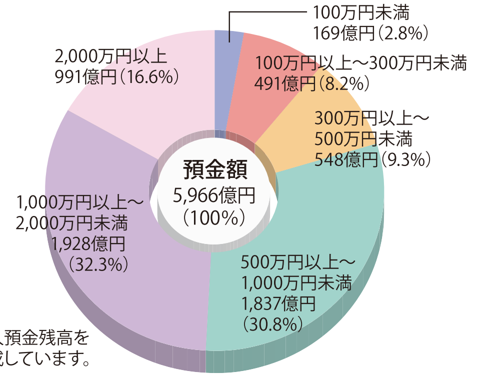
〈貸出金・預金の地域別構成〉（平成28年9月30日現在）





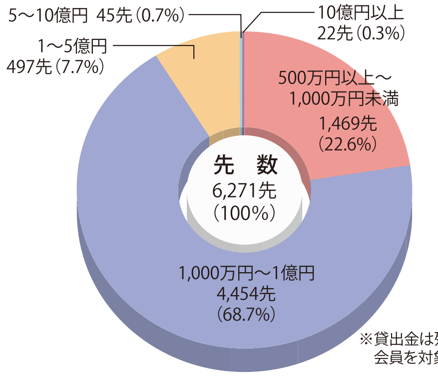
〈預金者のプロフィール〉〈個人預金の残高階層別にみた顧客数と預金額〉（平成28年9月30日現在）

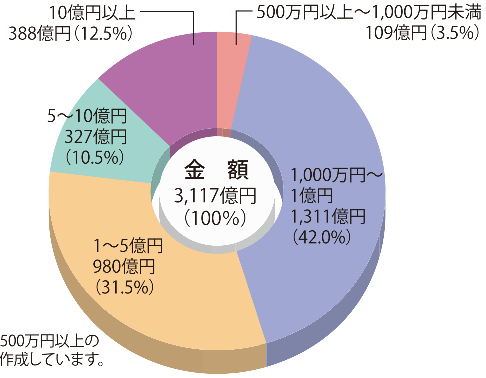




※預金は個人預金残高を
対象に作成しています。

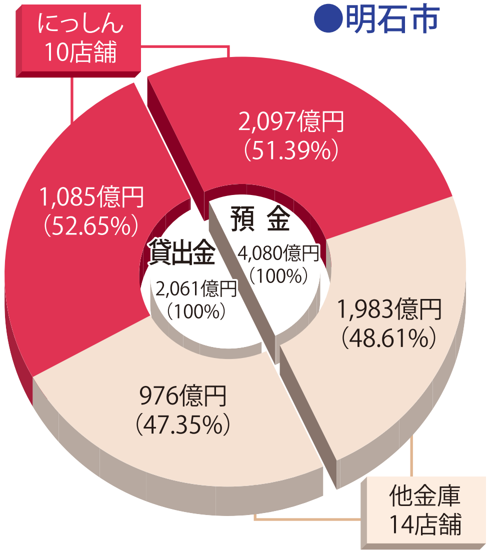
〈貸出先のプロフィール〉〈貸出金の残高階層別にみた先数と金額〉（平成28年9月30日現在）

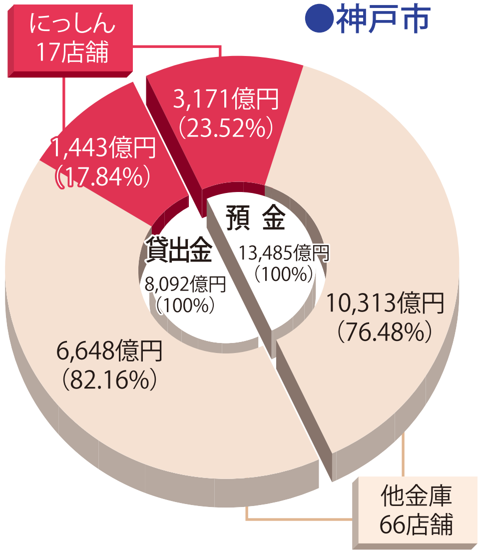


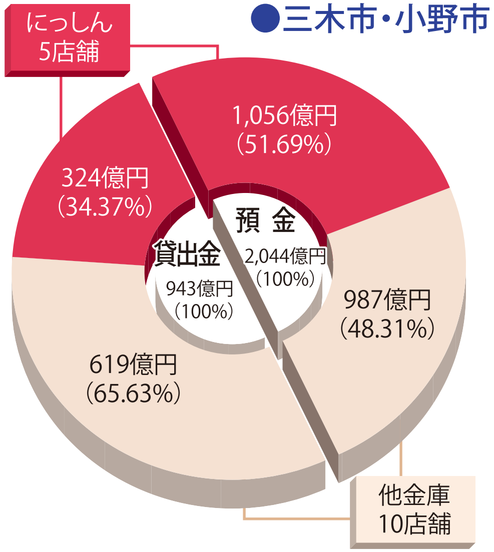


※貸出金は残高500万円以上の
会員を対象に作成しています。

〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉（平成28年3月31日現在）







※その他地区（加古川市・高砂市・播磨町・西宮市）預金580億円、貸出金179億円。

1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	平成27年9月末	平成28年9月末	前年同期比
現金・預け金	252,431	221,682	△ 30,748
コールローン	—	—	—
有価証券	185,344	223,239	37,894
貸出金	301,465	320,401	18,936
事業性貸出金	246,622	262,221	15,599
貸倒引当金	△ 5,523	△ 5,260	263
うち個別貸倒引当金	△ 4,387	△ 4,526	△ 139
資産の部合計	745,677	771,427	25,749

(単位:百万円)

負債及び純資産の部	平成27年9月末	平成28年9月末	前年同期比
預金・積金	702,071	722,729	20,658
個人預金	587,863	596,983	9,120
負債の部合計	708,623	730,107	21,483
出資金	1,077	1,105	28
利益剰余金	32,367	33,305	937
その他有価証券評価差額金	3,609	6,908	3,299
純資産の部合計	37,053	41,319	4,265
負債及び純資産の部	745,677	771,427	25,749

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項目	平成27年9月末 (平成27年4月1日〜9月30日)	平成28年9月末 (平成28年4月1日〜9月30日)	前年同期比
業務粗利益……………②	5,335	4,187	△ 1,148
うち資金利益	3,420	3,454	34
うち役務取引等利益	191	172	△ 18
うちその他業務利益	1,723	559	△ 1,164
一般貸倒引当金繰入額③	6	—	△ 6
経費………………………④	3,464	3,323	△ 140
業務純益………………①	1,864	863	△ 1,001
実質業務純益………⑤	1,870	863	△ 1,007
臨時損益………………⑦	△ 92	430	522
うち不良債権処理額	208	—	208
うち株式関係損益	58	119	61
経常利益………………⑥	1,772	1,293	△ 478
特別損益	△ 18	8	27
税引前当期純利益……⑨	1,753	1,302	△ 451
当期純利益……………⑧	1,291	1,049	△ 242

■主な項目の計算方法
①業務純益 ＝ ②業務粗利益 − ③一般貸倒引当金繰入額 − ④経費
⑤実質業務純益 ＝ ①業務純益 ＋ ③一般貸倒引当金繰入額
⑥経常利益 ＝ ①業務純益 ＋ ⑦臨時損益
⑧当期純利益 ＝ ⑨税引前当期純利益 − 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内訳	平成27年9月末		平成28年9月末		前年同期比
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	38,920	12.9%	43,812	13.7%	4,892
農業・林業	58	0.0%	45	0.0%	△ 13
漁業	211	0.1%	186	0.1%	△ 25
鉱業・採石業・砂利採取業	7	0.0%	0	0.0%	△ 7
建設業	24,337	8.1%	27,698	8.6%	3,361
電気・ガス・熱供給・水道業	502	0.2%	655	0.2%	—
情報通信業	1,024	0.3%	1,267	0.4%	243
運輸業・郵便業	11,892	3.9%	12,169	3.8%	277
卸売業・小売業	37,987	12.6%	40,677	12.7%	2,690
金融業・保険業	13,248	4.4%	13,303	4.2%	55
不動産業	64,149	21.3%	66,214	20.7%	2,065
物品賃貸業	1,522	0.5%	1,516	0.5%	△ 6
学術研究・専門・技術サービス業	1,149	0.4%	1,519	0.5%	370
宿泊業	1,696	0.6%	1,852	0.6%	156
飲食業	5,145	1.7%	5,754	1.8%	609
生活関連サービス業・娯楽業	4,737	1.6%	4,637	1.4%	△ 100
教育・学習支援業	1,537	0.5%	2,205	0.7%	668
医療・福祉	27,608	9.1%	27,061	8.4%	△ 547
その他のサービス	10,880	3.6%	11,644	3.6%	764
小　計	246,622	81.8%	262,221	81.8%	15,599
地方公共団体	9,842	3.3%	9,433	2.9%	△ 409
個人(住宅・消費・納税資金等)	45,001	14.9%	48,746	15.2%	3,745
合　計	301,465	100.0%	320,401	100.0%	18,936

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

（単位：百万円）

内訳	平成27年9月末				平成28年9月末			
	時価	評価損益	うち益	うち損	時価	評価損益	うち益	うち損
その他有価証券	156,853	4,998	5,592	594	202,756	9,567	10,919	1,352
国　債	44,535	1,604	1,644	39	45,327	4,427	4,427	–
地方債	25,185	509	515	6	21,428	652	652	–
社　債	62,760	1,156	1,252	95	66,550	2,668	2,820	151
うち　政府保証債	12,784	504	504	0	12,414	492	492	0
うち　公社公団債	5,224	38	46	8	7,623	641	642	0
うち　金融債	10,133	30	30	-	2,703	3	3	–
うち　事業債	34,617	583	670	87	43,809	1,530	1,681	150
外国証券	8,884	362	394	32	15,053	△83	409	493
株　式	4,478	1,206	1,308	102	3,941	1,291	1,352	61
うち子会社・関連会社株式	139	–	–	–	139	–	–	–
投資信託	10,931	144	463	318	50,384	593	1,239	646
その他	77	14	14	–	70	16	16	–
満期保有目的の債券	28,893	402	623	220	21,438	955	995	39
国　債	11,448	583	583	–	11,576	717	717	–
外国証券	17,445	△180	39	220	9,861	238	278	39
売買目的有価証券	–	–	–	–	–	–	–	–

※ 評価損益は、9月末日の帳簿価格（償却原価法適用後、減損処理後）と時価の差額を計上しています。
※ 時価は9月末日の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としています。

5. 決算の状況

（単位：百万円）

項目	平成27年9月末	平成28年9月末
業務純益	1,864	863
経常利益	1,772	1,293
コア業務純益	167	323
当期純利益	1,291	1,049

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

（単位：百万円）

項目	平成27年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額（A）	33,444
うち出資金及び資本剰余金の額	1,077
うち利益剰余金の額	32,367
うち外部流出予定額（△）	–
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額（B）	1,179
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	1,179
コア資本に係る基礎項目の額（A+B）…（C）	34,624
コア資本に係る調整項目の額……………（D）	217
自己資本の額（C−D）……………………（E）	34,406
リスク・アセット等の合計額………（F）	306,790
単体自己資本比率（E）/（F）	11.21%

（単位：百万円）

項目	平成28年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額（A）	34,410
うち出資金及び資本剰余金の額	1,105
うち利益剰余金の額	33,305
うち外部流出予定額（△）	–
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額（B）	772
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	772
コア資本に係る基礎項目の額（A+B）…（C）	35,183
コア資本に係る調整項目の額……………（D）	326
自己資本の額（C−D）……………………（E）	34,857
リスク・アセット等の合計額………（F）	322,010
単体自己資本比率（E）/（F）	10.82%

（注）自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第21号）」に基づき算出を行なっています。なお、当金庫は国内基準を採用しています。

■ 本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■ 本誌に掲載している計数については、会計監査人による監査を受けていません。

7. 自己資本の構成（単体）

（単位：百万円）

項目	平成27年9月末	経過措置による不算入額	平成28年9月末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目（1）				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	33,444		34,410	
うち出資金及び資本剰余金の額	1,077		1,105	
うち利益剰余金の額	32,367		33,305	
うち外部流出予定額	–		–	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,179		772	
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	1,179		772	
コア資本に係る基礎項目の額（A）	34,624		35,183	
コア資本に係る調整項目（2）				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く）の額の合計額	115	173	176	117
うちのれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	115	173	176	117
前払年金費用の額	101	152	150	100
コア資本に係る調整項目の額（B）	217		326	
自己資本				
自己資本の額（A）−（B）＝（C）	34,406		34,857	
リスク・アセット等（3）				
信用リスク・アセットの額の合計額	292,459		307,805	
資産（オン・バランス）項目	291,587		306,815	
うち経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△6,954		△6,161	
うち無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く）	173		117	
うち前払年金費用	152		100	
うち他の金融機関等向けエクスポジャー	△7,280		△6,378	
オフ・バランス取引等項目	777		767	
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	95		223	
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	14,330		14,204	
リスク・アセット等の額の合計額（D）	306,790		322,010	
自己資本比率（（C）/（D））	11.21%		10.82%	

（注）
1. 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第21号）」に基づき算出を行なっています。なお、当金庫は国内基準を採用しています。
2. オペレーショナル・リスクは基礎的手法を採用しています。

●オペレーショナル・リスク「基礎的手法」の算出方法

$$\frac{\text{粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

（単位：百万円）

区分	平成27年9月末	平成28年9月末(A)	前年同期比
	債権額	債権額	前年同期比
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	3,538	2,203	△1,334
危険債権	15,300	12,956	△2,344
要管理債権	3,381	3,077	△304
不良債権合計	22,220	18,237	△3,982
正常債権	281,088	303,361	22,273
合計	303,308	321,599	18,290
不良債権比率	7.326%	5.671%	△1.655%

保全状況（平成28年9月末）

（単位：百万円）

区分	担保・保証額（B）	担保・保証のない部分（C）＝（A）−（B）	引当額（D）	（C）に対する引当率（D）/（C）	保全額（E）＝（B）＋（D）	保全率（E）/（A）
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,229	973	973	100.00%	2,203	100.00%
危険債権	8,390	4,565	3,424	75.00%	11,814	91.19%
要管理債権	1,177	1,900	217	11.44%	1,394	45.31%
不良債権合計	10,797	7,440	4,615	62.04%	15,413	84.51%